



天茶つ子

2025年9月26日(金)

天下茶屋小学校

校長 清原良一

今年の夏の甲子園 高校球児の涙から

毎年のことですが、甲子園球場での夏の高校野球の決勝戦が終わると、今年の夏も終わりが近づくなあという寂しさに包まれます。今年の全国野球選手権大会は、沖縄尚学が沖縄県初の悲願の夏優勝を果たしました。いずれの試合においても、投手の力投や好守備により実力が拮抗した緊迫する場合が多く、延長タイブレークの試合では様々なドラマが生まれました。高校野球では延長タイブレークの制度が導入されています。ノーアウト、ランナー1塁・2塁の状況から攻撃が始まります。守る側からすると、バントで1死2、3塁、あるいは四死球で満塁。いきなりの大きなピンチを迎えることになります。このタイブレークの末に甲子園を去る学校。そしてその選手はグランドで泣き崩れ呆然と立ち尽くす球児の姿に胸が熱くなりました。熱中症防止や選手の健康面を考慮して、このタイブレーク制の他にも、投手の投球数制限や試合中のクーリングタイム、また午前と夕方に分けて試合を行う二部制も導入されています。これに加えて高校野球連盟は、イニング数を9回から7回に変える7回生の検討も始めています。試合時間の短縮で、選手の負担軽減や観客も含めた暑さ対策が背景にありますが、野球そのものが変わってしまうという懸念もあります。また開場100周年を迎えた聖地甲子園での開催の意義は大きいですが、ドーム球場との併用との声もあり、様々な議論が交わされています。しかし我々が忘れてはいけないのは「選手のためになるのか?」の視点です。選手の健康や安全を担保しつつ、球児たちの高校生としての成長をも促す制度にしてほしいと思います。

リフレーミングでお子さんによさを

「リフレーミング」自分の枠組みを変えることですが、同じ物事でも視点を変えると見方や感じ方が異なり、同じことが長所になったり、短所になったりするのです。例えば「コップに半分の水」があったとします。「もう半分しかない」と考えるか「まだ半分ある」と考えるのかの違いです。一つの価値観にこだわっていると、ときに行き詰まりを感じてしまいます。自分にとって欠点だと思えることも、見方を変えれば長所となりプラスに働くかもしれません。起きてしまった出来事は変えられませんが、リフレーミングをして多面的に見ることによって不快な思いや否定的に感じる反応をポジティブな反応に変えられるのです。例えば失敗したときに「自分はダメだ」と感じるか「次のためによい経験をした」ととらえるかの違いです。失敗したときは気持ちが沈みますが、「次に活かすためによい経験をした」と見方をえて捉えると、前向きな気持ちになって、次の行動がしやすくなります。短所だと思っていたところが長所として考えることができるようになると、長所・短所を含めた「その子らしさ」に目を向けることができるようになります。ご家庭でもお子さんの姿をリフレーミングで見つめ直して、よさをたくさん発見していただきたいです。もちろん、私たち大人も自分自身をリフレーミングできるようになるといいですね。